

ピント合わせAF(オートフォーカス) 及びフルタイムマニュアル機構の使い方

●ニコン、キャノンのカメラをお使いの場合

1. レンズ側のAF・MF切替スイッチ ㉔をAFモードに切り替えます。(図G)
2. ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しします。
3. ファインダー内にピントの合ったことを知らせるマークが点灯します。
4. シャッターボタンを押して撮影します。

●ソニーのカメラをお使いの場合

1. レンズ側のAF・MF切替スイッチ ㉔をAFモードに切り替えます。(図G)
2. カメラをAFモードに切り替えます。
3. ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しします。
4. ファインダー内にピントの合ったことを知らせるマークが点灯します。
5. シャッターボタンを押して撮影します。

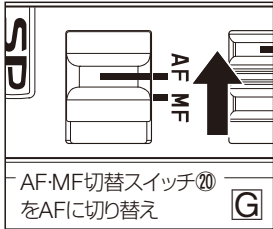
【フルタイムマニュアル機構の使い方】

A011はフルタイムマニュアル機構を搭載しています。フルタイムマニュアル機構とは、オートフォーカス撮影時でもAF・MF切替スイッチを切り替えることなく、マニュアルフォーカスでピントの微調整ができる機構です。

●使い方

まず、オートフォーカスでピントを合わせます。

そこでシャッターボタンを半押し状態のまま、フォーカスリング ㉔を回すことで、マニュアルフォーカスによるピントの微調整ができます。



- 距離目盛 ㉑は、ある程度の目安として表記していますので、実際のピント位置と異なる場合があります。
- 詳しくはご使用カメラの取扱説明書を併せてご覧ください。

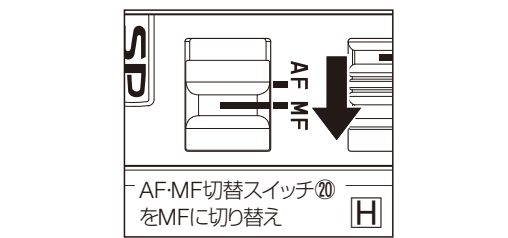
ピント合わせMF(マニュアルフォーカス)

●ニコン、キャノンのカメラをお使いの場合

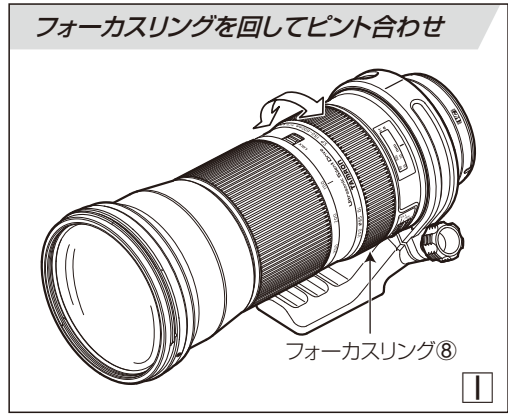
1. レンズ側のAF・MF切替スイッチ ㉔をMFモードに切り替えます。(図H)
2. ファインダーをのぞきながらフォーカスリング ㉔を回してピントを合わせます。(図I)

●ソニーのカメラをお使いの場合

1. レンズ側のAF・MF切替スイッチ ㉔をMFモードに切り替えます。(図H)
2. カメラをMFモードに切り替えます。
3. ファインダーをのぞきながらフォーカスリング ㉔を回してピントを合わせます。(図I)



- カメラのフォーカスエイド機能により、MFモードに設定されていてもシャッターボタンを半押ししながらフォーカスリング ㉔を回すと、ピントが合ったとき、ファインダー内の合焦ランプが点灯する場合があります。
- さまざまな条件下で良好なピントを確保できるよう、フォーカスリング ㉔は無限遠(∞)位置よりも余分に回転します。したがって、マニュアルフォーカス撮影では、無限遠にピントを合わせる場合も、必ずファインダーでピントを確認してから撮影してください。
- 詳しくはご使用カメラの取扱説明書を併せてご覧ください。



絞りについて

撮影モードにしたがって、絞りはカメラ側で設定します。

フォーカスリミッターの使い方

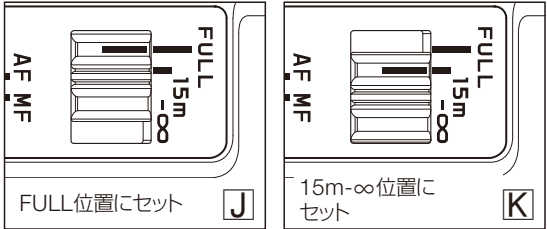
オートフォーカス撮影時には、フォーカスリミッタースイッチの切り替えによって、よりスピーディなピント合わせが可能になります。

●最近接から無限遠までの全域で撮影するとき

フォーカスリミッタースイッチをFULL位置にセットします。(図J)

●最近接域以外で通常撮影(15m-無限遠)を行うとき

フォーカスリミッタースイッチを「15m-∞」にセットします。(図K)



三脚座

A011には三脚座が装備されています。三脚を使用する際は、三脚座でレンズを三脚にしっかりと固定してください。

●カメラの縦横の位置を変える

1. 三脚座固定ネジ ㉒を反時計回りに回してゆるめます。(図L 操作①)
2. 固定したい位置まで三脚座を回し、合わせます。(図L 操作②)
3. 三脚座固定ネジ ㉒を時計回りに回してしっかり固定します。(図L 操作①)

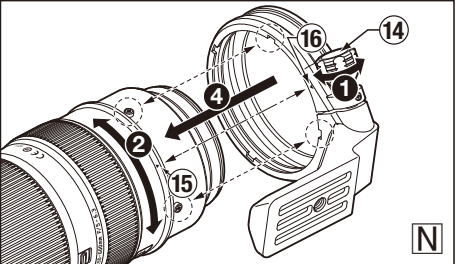
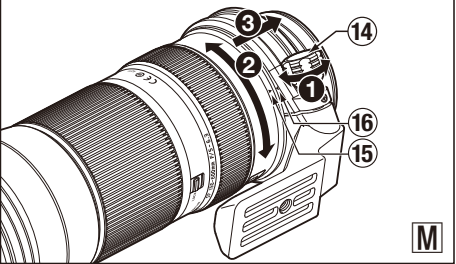
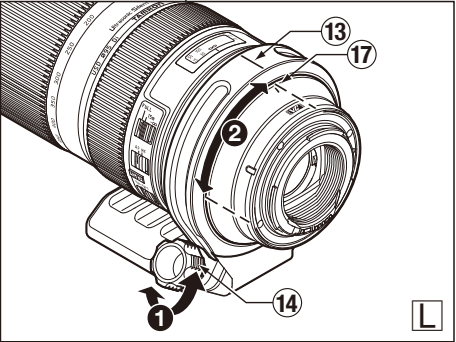
●三脚座を取り外す

1. 三脚座固定ネジ ㉒を反時計回りに回してゆるめます。(図M 操作①)
2. 三脚座を回し、レンズと三脚座の三脚座着脱指標 ㉑ ㉒を合わせます。(図M 操作②)
3. 三脚座がレンズから外れます。(図M 操作③)

●三脚座を取り付ける

1. レンズと三脚座の三脚座着脱指標 ㉑ ㉒を同じ位置に合わせるように取り付けます。(図N 操作④)
2. 三脚座を回し、好みの位置に合わせます。(図N 操作②)
3. 三脚座固定ネジ ㉒を時計回りに回してしっかり固定します。(図N 操作①)

- 三脚にレンズを取り付けたまま場所を移動する際には充分にご注意下さい。
- 三脚座の取付・取外しの際にはカメラとレンズを落とさないように注意してください。
- 三脚座着脱指標(レンズ側) ㉑は三脚座縦位置指標を兼ねています。

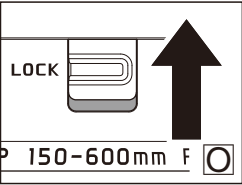


ズームロック機構

ズームロックの機構は、焦点距離 150mmの位置でズームリングの回転を固定し、携行中にレンズが自重で伸びて(ズームリングが望遠側へ回転して)しまうのを防ぎます。

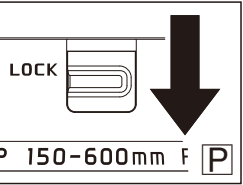
●ズームロックをするには

1. 焦点距離目盛 ㉑の150mmに、焦点距離指標 ㉒を合わせます。
2. ズームロックスイッチ ㉓を上を押上げます。(図O)



●ズームロックを解除するには

1. ズームロックスイッチ ㉓を手前(カメラ側)に引きます。(図P)
2. ズームロックが解除され、ズームリング ㉔が回転できるようになります。



- 焦点距離指標 ㉒が150mmに合っていないと、ズームロックスイッチ ㉓は無理に押し上げたり、ロックされた状態でズームリング ㉔を回転させないでください。故障の原因となります。
- ズームロック機構は、レンズ携行時にレンズの伸びを防ぐための機構です。150mm以外の焦点距離でレンズを上向きまたは下向きにして長時間撮影をすると、レンズの焦点距離は、露光中に自重でワイド側またはテレ側に変化してしまうことがありますのでご注意ください。

- ズームロックされた状態でも、150mm位置での撮影は可能です。

Diレンズはデジタル一眼レフカメラの諸特性に配慮した光学設計を行っておりますが、デジタル一眼レフカメラとの組合せにおいて、AF撮影時、撮影条件によりまして、レンズ側のAF合焦精度が仕様内でも、ピント位置がわずかに前あるいは後になる場合がございます。

撮影時のご注意

- 最短撮影距離を実現するために、インターナルフォーカス方式を採用しています。このため、無限遠に満たない撮影距離で撮影した場合、他のフォーカス方式を採用しているレンズに比較して、撮影範囲が広くならないです。
- カメラの内蔵ストロボを使ってフラッシュ撮影される場合は、フードやレンズ本体によるケラレが出るので、フードは必ず外してください。ワイド側や近距離での撮影では、レンズ本体がストロボ光を遮って、レンズフードを使わなくても画面下部に半円形のケラレが出る場合があります。フラッシュ撮影では、外部着脱式の専用ストロボのご使用をおすすめします。ご使用のカメラの取扱説明書"内蔵ストロボ"に関する項を併せてご覧ください。
- レンズの光学性能上、テレコンバーターのご使用はお勧めしません。
- カメラの表示システムの違いにより、開放F値、及び最小F値が仕様と異なった値で表示される場合がありますが、異常ではありません。また、長い焦点距離側で表示される最小絞り値が異なる場合がありますが、異常ではありません。

長くご使用いただくために

- レンズ面についたゴミや汚れは、ブローで吹き飛ばすか柔らかいハケで取り除いてください。レンズ面は指で触れないようにしてください。
- レンズ面に指紋や油がついたときは、市販のレンズクリーニングペーパー、よく洗った木綿の布やマイクロファイバークロス(眼鏡などの専用清掃布)に、レンズクリーナーをしみこませて、レンズ面の中心部から軽く拭き取ってください。シリコンクロスは使わないでください。
- 鏡胴部はシリコンクロスで清掃してください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。
- カビはレンズの大敵です。レンズ面に指紋をつけたときや、高温多湿の海や山での撮影後には必ずレンズを清掃してください。また、ボディーから取り外したレンズは、ホコリやキズがつくのを防ぐため、専用キャップを前後に付けてケース等に入れてください。風通しがよく、ゴミやホコリの少ない場所に保管してください。ケースに入れて保管する場合は、市販の乾燥剤を入れ、時々交換してください。
- レンズの信号接点には、指を触れないようにしてください。ホコリや汚れなどによって接触不良になると、レンズとカメラ間の信号の伝達が正しく行われなくなり、誤作動の原因になります。
- 温度が急激に変化すると、カメラ及びレンズ内部に水滴が生じ、故障の原因となります。ビニール袋などで密封し、周囲の温度になじませてから取り出してご使用ください。

製品保証およびアフターサービス

1. ご購入日より1年間の保証期間経過後の修理は有料となります。なお、運賃諸掛はお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理用性能部品は生産終了後7年を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。また、期間後であっても修理可能な場合がありますので、お買い求めのカメラ店、又は弊社お客様相談窓口までご相談ください。
3. 日本国外で故障した場合は、お客様相談窓口までご相談ください。緊急の場合は下記の弊社海外現地法人までご相談ください。但し、日本国内で発行された保証書は海外では無効ですのでご注意ください。
4. 修理品をご送付の場合は、書面にて修理依頼箇所を明確にご指示のうえ、十分に梱包してお送りください。



受付時間：平日9:00～17:00(土日・祝日・弊社指定休業日は除く)
ナビダイヤルをご利用できない場合は**048-684-9889**におかけください。FAXでのお問い合わせは**048-689-0538**に送信ください。
東京修理受付窓口：〒110-0005 東京都台東区上野6丁目16番22号 上野TGビル3階 TEL 03-5817-7210 FAX 03-3837-1790

タムロン海外現地法人

TAMRON USA, INC.	： 10 Austin Boulevard, Commack, NY 11725, USA	Tel. +1-631-858-8400
TAMRON France EURL	： 5, avenue Georges Bataille, F-60330 Le Plessis-Belleville Boite postale 31, FRANCE	Tel. +33-3-44-60-73-00
TAMRON Europe GmbH	： Robert Bosch-Str. 9, 50769 Cologne, GERMANY	Tel. +49-221-970325-0
TAMRON INDUSTRIES (HONG KONG) LTD.	： Unit 908, 9/F, Elite Centre, 22 Hung To Road, Kwun Tong, Kowloon, Hong Kong	Tel. +852-2721-7797
TAMRON OPTICAL (SHANGHAI) CO.,LTD.：	Room 1707, Ruijin Building, No.205, Maoming South Road, Shanghai, 200020, CHINA	Tel. +86-21-5102-8880
TAMRON (Russia) LLC.	： Unikon Business Center 5F No.9, Plekhanova Street 4a, Moscow, 111123, Russian Federation	Tel. +7-495-970-0112
TAMRON INDIA PRIVATE LIMITED：	801, 8th Floor, Time Tower, M.G Road, Sector-28, Gurgaon-122002, Haryana, India	Tel. +91-124-41-168-12
海外営業部	： 〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地	Tel. (048)684-9339